

【小学校・中学校・義務教育学校用】
令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

| | | |
|------------------|---|---|
| 学校名 | 鳥栖市立鳥栖北小学校 | 達成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である |
| 1 前年度 評価結果の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価をもとに、取組をさらに推進させることで、目標に近づくことができた。来年度も振り返りを生かして取り組んでいきたい。 ・教科「日本語」やコミュニティ・スクールの取組についての周知が不十分であることが分かった。学校だよりや授業参観、学校ホームページを使って取組を広く知らせていきたい。 ・コミュニティ・スクールとしての取組が軌道に乗ってきている。学校運営協議会とともに様々な行事を企画し、実施していきたい。 | |
| 2 学校教育目標 | 豊かな心を持ち、個性に富み、たくましく生きる児童の育成 | |
| 3 本年度の重点目標 | ①子どもの心を鍛える ②子どもの学びを鍛える ③子どもの体を鍛える ④教師力を磨く ⑤共に育てる | |

4 重点取組内容・成果指標

| | | |
|-----------|------|--------|
| (1)共通評価項目 | 中間評価 | 5 最終評価 |
|-----------|------|--------|

| 評価項目 | 重点取組 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | | |
|------------|--|--|--|---|--|--|---|--|---|--|
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 | |
| ●学力の向上 | ●「自分の思いをもち、自分なりの方法で伝えることができる児童の育成」を目指した授業実践と研究授業の実施 | 「自分の思いをもち、自分なりの方法で伝えることができる」自分の思いをもち、自分なりの方法で伝えることは大切なことだと思う」と肯定的な回答をする児童の割合が90%以上 ・国語科・算数科それぞれの単元テストの思考・判断・表現力における年間平均到達度が80%以上。 | ・教職員間で成果指標を共有するとともに、校内研修等により取組の促進を図る。 | B | 92%の児童が、自分の思いをもち、自分なりの方法で伝えることのおよむを感じ実践している。また、単元テストにおける思考・判断・表現力についての前期の平均到達度は、学校全体で国語91%、算数82%であった。 | A | 全学年において目標を大きく達成することができた。学級ごとの風土作りを力を入れ、伝える方法の工夫したり、機会を増やしたりしたこと、児童は自分の思いを安心して友達に伝えることができた。また、各担任の取り組みを記録として預け共有することができた。 | A | 県学力・学習調査で、国語、算数とも目標値を大きく上回ることができている。学力個別の分析を丁寧に行い、下位層の支援の充実を望みます。 | |
| | ○読書活動の推進 | 読書量平均一人70冊以上(低学年) 60冊以上(中学年) 50冊以上(高学年) | ・図書委員会による図書祭りや各学年のおすめの本を提示するなど児童への啓発活動を進める。 ・読書ノートの活用を奨励する。 | B | 読書量に関しては、概ね達成している。10・11月は、一人3冊まで貸出する取り組みや図書委員会による図書祭りでもさらに読書に親しむ機会を設けていき。読書ノートの活用は、各クラスで利用状況に差が見られたので、他の方法で親しむ方法がないか模索していきたい。 | A | 全学年で、読書量の目標を達成することができた。特に、例年運動会期間は、図書室に足を運ぶ機会が減ってしまう傾向が見られたが、一回の貸出冊数を増やすなどすることで、読書へ親しむ機会を維持することができた。児童による図書祭りも図書館へ足を運ぶ機会につながった。 | B | 良いできばえの読書感想文などあれば、各学級で発表する機会を設けてはと思う。保護者も含め読書週間の習慣を奨励してもらいたい。 | |
| ●心の教育 | ●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動するなど、豊かな心を身に付ける教育活動 | 「道徳に関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒70%以上 | ・学級づくりや道徳科の授業づくりに関する情報共有等を行う。 ・友達のおよみつけの実践を行う。 | A | 「友達のおよみを知っている」と答えた児童は90%以上であり、よさに目を向ける習慣はつきつつある。 | A | 学級づくりについては、校内研修を通して、授業中や特別活動における手立てなどを共有することができた。「友達のおよみを知っている」と答えた児童は、中間評価同様90%以上であり、よさに目を向ける習慣がついてきている。 | A | 毎年思うのだけが、北小の特色だと思うので、これからも継続できるように取り組んでほしい。リフレージングはとても大切である。各家庭にも広げていきたい。 | |
| | ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 | いじめ防止等(いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事業対処等)について組織的対応ができていると回答した教員90%以上 | いじめの定義について研修を行う。 毎月10日の鳥栖市いじめ・命を考える日」になかよしアンケートを行い、即日確認するとともに、チームで迅速に対応する。 毎週各曜日の生徒指導打ち合わせ」で情報共有し、指導や支援の方法について共通理解を図る。 | A | いじめ防止等に組織的対応ができている」とする教員は100%あり、「なかよしアンケート」の取り組みでは、学級担任がすぐに対応をし、学年主任や管理職等に報告や相談をするなど、いじめの早期発見・早期対応ができている。 毎週各曜日の生徒指導打ち合わせ」で情報共有し、指導や支援の方法について共通理解を図る。 | A | いじめをない、させないように心がけている児童が95%、いじめを許さない、見過ごさない集団形成ができている。 いじめ防止等について組織的対応ができていると肯定的な回答した教員は100%あり、チームでの対応ができている。 | A | 何より素直で元気な子どもに成長できるように心がけるべきである。情報共有を徹底して、組織的な対応を心がけてもらいたい。 | |
| | ●児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動 | 「先生はあなたのおよみ場所を認めてくれると思う」と回答した児童生徒90%以上 「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・児童が夢や目標をもつことができるような授業実践を行うとともに、実践についての情報を共有する。 キャリアパスポートを活用し、活動の共通点とよみ取りを一体化して児童に意識させることで、児童が自己の成長に気付けるようにする。 | ・児童が夢や目標をもつことができるような授業実践を行うとともに、実践についての情報を共有する。 キャリアパスポートを活用し、活動の共通点とよみ取りを一体化して児童に意識させることで、児童が自己の成長に気付けるようにする。 | A | 「先生はあなたのおよみ場所を認めてくれる」と答えた児童生徒は91%であった。 また、「将来の夢や目標を持っている」と答えた児童生徒は89%であり、授業実践やキャリアパスポートを通じて、自身の目標や将来について考えることができた。 | A | 「先生はあなたのおよみ場所を認めてくれる」と答えた児童生徒は92%であった。また、「将来の夢や目標を持てている」と答えた児童生徒は87%であった。授業実践やキャリアパスポートを通じて、自身の目標や将来について考えることができた。 | A | 学校生活が楽しいと思える環境を提供してほしい。アンケートの経年比較をしてほしい。 |
| | ○「英語であいさつ」「英語でありがとう」が言える児童の育成 | 「あいさつに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上 | ・運営委員会の児童を中心に、朝のあいさつ運動を行う。 ・学校便りや学級通信であいさつ大切、あいさつ運動の取り組みについて紹介する。 | ・運営委員会の児童を中心に、朝のあいさつ運動を行う。 ・学校便りや学級通信であいさつ大切、あいさつ運動の取り組みについて紹介する。 | A | 「あいさつに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒80%以上であった。 | A | 「あいさつに関するアンケートにおいて肯定的な回答をした児童生徒89%以上であった。また、笑顔で元気のよい挨拶ができるよう指導している」と肯定的な回答をした教員は95%であり、あいさつ大切について話し、すもと一緒実践することができている。 | A | あいさつをしたくなるような取組を地域ぐるみでつくってほしい。 |
| ●健康・体づくり | ①「望ましい生活習慣の形成」 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ③「安全に関する資質・能力の育成」 ④児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ①早寝早起きをしている児童90%以上を維持する。 ②「健康に良い食事をしている」児童生徒80%以上 ③児童生徒の交通事故を0(ゼロ)にする | ・各学級において、「早寝・早起き・朝ごはん」の大切さについて伝え、学ぶ場をつくる。また、継続できているかの振り返りも定期的に行う。 ・生活リズムアップ週間を実施し、学校・家庭の両面から、朝ご飯を食べて登校する週間を意識させる。 ・防犯ブザー点検を各学級で行い、所持する必要性について声掛けを行う。 | B | 「早寝早起きの生活を続けている」と回答した児童は、90%であった。朝ごはんを食べる習慣の大切さを継続的に指導している。 「健康に良い食事をしている」と回答した児童は90%で、達成できている。 児童生徒の交通事故は数件起きているので、各学級での指導を継続していく。 | A | 「早寝早起きの生活を続けている」と回答した児童は、90%以上であった。そのうち、「あてはまる」割合が3ポイント向上した。朝食をとる習慣の大切さを継続的に指導している。 「健康に良い食事をしている」と回答した児童は90%以上であった。教職員と児童においては、バランスや食育を意識した割合が増加していた。 防犯ブザー所持率、ヘルメット着用率は昨年度に比べて上昇しているものの、8割程度なので引き続き声掛けをする必要性を感じる。 | A | 保護者の働き方が変化している今、早寝早起きが家庭の負担になっているかもしれないが、学校からは継続して各家庭に呼びかけしてほしい。 | |
| | ○運動習慣の改善や定着化を目指した教育活動 | 運動やスポーツが好きだと感じている児童生徒90%以上 | ・週に1回以上各学級でレクリエーションの日を設定し、運動する機会を増やすようにする。 ・全校児童を対象としたスポーツ大会を実施し、運動を楽しく感じよう取り組みをする。 | ・週に1回以上各学級でレクリエーションの日を設定し、運動する機会を増やすようにする。 ・全校児童を対象としたスポーツ大会を実施し、運動を楽しく感じよう取り組みをする。 | B | 「運動やスポーツが好きだと感じている児童は、84%で、達成できなかった。 ・全校児童を対象としたスポーツ大会を実施しようとしたが、一部しかできなかったで、2学期から3学期にかけて実施するよに計画している。 | B | 「ほとんどどの学級でレクリエーションの日を設定し、運動に親しんでいたが、「運動やスポーツが好きだ」と感じている児童は、1学期と同じ84%で、達成できなかった。 ・全校児童を対象としたスポーツ大会を2月に実施することができた。 | B | 運動する機会やスポーツ大会は続けて設けてほしい。学級レクリエーションをイベントとして高めしてほしい。学級、学年をこえた取組など。 |
| | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●年間20日の年次休暇のうち、年次休暇の取得日数が14日以上職員が80%以上。 | ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 ●年間20日の年次休暇のうち、年次休暇の取得日数が14日以上職員が80%以上。 | ・業務記録により勤務時間の意識化を図る。 ・定時退勤日を設定し、確実に実行する。 ・業務の精選を行う。 ・業務を計画的に進めるよう毎日施設時刻の30分前に職員への呼び掛けを行う。 | A | 「職員が毎日施設時刻の15分前に呼び掛け、業務を計画的に進めるよう働きかけた。1学期中、時間外勤務につき80時間を超える職員は一人もいなかったが、45時間を超える職員が管理職以外で数人であった。引継ぎ時間外在校等も意識した働きかき全員共通理解の工夫をしていきたい。 | A | 「授業または業務において、ICT機器を積極的に活用している」という質問項目に対し、「あてはまる」割合は97%と回答した職員は100%である。 | A | 17時以降の駐車場に先生方の車を見かけなくなりました。先生方もきちんと休みを取ってもらえる環境を整えてほしい。 |
| ○ICT機器の活用 | ICT機器を授業や業務に活用できている職員が割合80%以上 | ・各種業務の文書のワークスペースをつくり、活用できるように整備する。 ・ICT機器(PC、タブレット)を授業や業務に効率的に活用する | ・各種業務の文書のワークスペースをつくり、活用できるように整備する。 ・ICT機器(PC、タブレット)を授業や業務に効率的に活用する | A | 「授業または業務において、ICT機器を積極的に活用している」という質問項目に対し、「あてはまる」割合は97%と回答した職員は100%である。 | A | 「授業または業務において、ICT機器を積極的に活用している」という質問項目に対し、「あてはまる」割合は97%と回答した職員は100%である。 | A | 個人差がなくなるべく指導してほしい。 | |
| ●特別支援教育の充実 | ○教員の専門性と意識の向上 | ○通常学級と特別支援学級で連携した交流および共同学習の実施率100%。 ○特別支援に関する専門性と意識が向上した教員80%以上。 | ・障害理解や通常学級での特別支援に関する研修を行い、専門性の向上を図る。 ・保護者と合意形成のもと個別の支援計画を作成し、合理的配慮を実施する。 ・個々のニーズに応じた交流および共同教育の実践を行う。 | A | ・前期に2本の全職員対象の研修、1本の特別支援学級対象の研修会を実施した。 ・個別の教育支援計画と指導計画作成者の見直しを実施し100%作成済み。 | A | ・学年部や支援部内での連携した支援体制での合理的配慮の提供は様々な形で実践することができた。 ・個別の教育支援計画の情報共有や活用することで教員の80%以上が専門性と意識が向上することができた。 | A | 意識の向上が児童に及ぼした効果を知りたい。研修の結果が子供たちに具体的に生かされるようしてほしい。 | |

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目

| 評価項目 | 重点取組 取組内容 | 成果指標 (数値目標) | 具体的取組 | 中間評価 | | 最終評価 | | 学校関係者評価 | |
|------------|----------------------------|---|--|-------------|--|-------------|--|---------|---|
| | | | | 進捗度 (評価) | 進捗状況と見通し | 達成度 (評価) | 実施結果 | 評価 | 意見や提言 |
| ○小中一貫教育の充実 | ○教科「日本語」の実践充実 | ○保護者・地域等に対する教科「日本語」の授業・開学級率80%以上。 ○保護者等に対する教科「日本語」に係る情報年間3回以上公開した学級率80%以上。 | ・教科「日本語」の実践内容について、学年通信で学期に1回紹介する。 ・児童の取り組みや感想等を、学級通信等で学期に1回以上伝える。 | B | 「教員アンケート」では、授業を定期的に行い、通信等で伝えられている割合は83%であり、授業参観で行った(行う予定)であると答えた割合は70%であった。また、保護者のアンケートから学校が定期に行っている授業、通信等で伝えられている授業は保護者も知っている。ことからほとんどの学級で教科「日本語」の授業を行い、通信等で伝えられている。しかし、「あてはまらない」と答えた人もいたため、そこを改善する必要がある。 | B | 「授業参観などで日本語の授業をほとんどの学級が行っていた。また、通信等で知らせられている学級もほとんどであった。しかし、どちらか多く当てはまらないと答えた学級も多かったため、ICTを必要とする学級があるが、評価アンケートの質問も少しある必要があると考え、目標を達成するために、具体的取り組みを工夫する必要があったと思う。 | B | 教職員全体で体制の充実を図ってほしい。教科「日本語」を経験した保護者はゼロに近いということを念頭に発信してほしい。これからは大切にしてほしい。 |
| ○学習への意欲の充実 | ○「子どもファースト」を意識した授業づくりと学級経営 | ○「意欲的に子どもが主体となる授業を行った」と回答した教師の割合90%以上。 ○「自分の教室は安心できる」と回答した児童の割合90%以上。 | ・子どもが主体的に活動する場面を設定した授業づくりを行う。 ・「自分の教室は安心できる」と回答した児童の割合90%以上。 | B | 「教員アンケート」子どもが主体となる授業を意識して行った」と回答した割合は97%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。 | A | 「教員アンケート」子どもが主体となる授業を意識して行った」と回答した割合は97%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。また、「あてはまらない」と答えた割合は9%と回答した。 | A | 適や違いを認め合うことを家庭内にも広げてほしい。相手を尊重することが第一歩です。 |

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育

| | | |
|--------------------|--|--|
| 5 総合評価・ 次年度への展望 | <ul style="list-style-type: none"> ・中間評価をもとに取組をさらに推進させるで、目標に近づけることができた。学力向上対策においては、「自分の思いをもつ、伝える」活動を仕組みながら校内研究とうまくリンクができ推進できた。 ・「子どもファースト」の授業づくりを意識する先生が増えた。また、子どもが安心して学級で過ごすことができる割合が、とても高い。来年度も、継続して取り組んでいきたい。 ・いじめの早期発見、早期対応においては、1人で抱え込まず、報告・連絡・相談がしやすい雰囲気できており、管理職を含めた組織的な対応ができた。 ・来年度は鳥栖北小学校70周年記念事業を子供の思いを大切にしながら、展開していきたい。 | |
|--------------------|--|--|